

令和7年度スポーツ庁世論調査

ゴルファーの性年齢別利用回数実態が判明!

ゴルフ（コースラウンド、練習場等）年間実施日数

コースラウンド 年間実施日数					練習場等 年間実施日数				
来場日数（年間）	人数	構成比	人口換算	延べ日数	構成比	人数	構成比	延べ日数	構成比
1日	89	5.0%	224,626	89	0.2%	40	2.2%	40	0.1%
2～5日	368	20.7%	928,791	1,270	2.8%	186	10.5%	683	1.1%
6～10日	180	10.1%	454,300	1,476	3.3%	98	5.5%	830	1.3%
11～20日（月1）	388	21.8%	979,269	5,277	11.7%	239	13.4%	3,241	5.1%
21～30日（月2）	263	14.8%	663,783	6,595	14.6%	167	9.4%	4,120	6.5%
31～40日	114	6.4%	287,723	4,208	9.3%	98	5.5%	3,584	5.7%
41～50日	75	4.2%	189,292	3,664	8.1%	70	3.9%	3,403	5.4%
51～60日（週1）	221	12.4%	557,780	11,734	26.0%	236	13.3%	12,559	19.8%
61～70日	7	0.4%	17,667	490	1.1%	4	0.2%	280	0.4%
71日以上	74	4.2%	186,768	10,314	22.9%	243	13.7%	34,969	55.1%
年1日以上	1,779		4,490,000	45,117		1,377		63,429	
（うち100日以上）	56	3.1%	141,338	8,836	19.6%	220	12.4%	33,055	52.1%
（うち365日）	8	0.4%	20,191	1,825	4.0%	3	0.2%	1,095	1.7%
平均実施日数	無効138件除く			25.4		無効168件除く			46.1

スポーツ庁の「令和7年スポーツの実施状況等に関する世論調査」より本誌にて作成

スポーツ庁は3月11日に令和7年11月に実施した「令和7年スポーツの実施状況等に関する世論調査」を発表した。ゴルフ参加率がさらに低下したが、今回調査では統計として画期的調査が含まれた。

年間の実施日数や時間等も調査したことで、5年に一度の『社会生活基本調査』（前回調査は令和3年）でしか判明していなかった性年齢別の年間利用回数が、ゴルフコース、ゴルフ練習場毎に判明し、ヘビィユーザーの利用実態や高齢者の比重の高さを改めて認識できることになった。

70代が年間30回超、シニア世代が縮小した市場をけん引

アンケートのローデータからコースラウンドの年間実施日数を回答したサンプル数は1779件で、平均日数は23.5日（無効138件除くと25.4日）。延べ日数（人数×実施数）の年齢別構成比では70代が3分の1の33.2%を占め、60代27.2%

を含め6割を超えた。コース推定人口は60代、70代で5割近くを占めてゴルフ場でプレーしている人達の6割が60歳以上のシニアとなった。何より、70代を筆頭にシニア年代はヘビィユーザーで平均回数は70代30.1日、60代も27.4日を数えた。女性人口は目立たないが女性70代平均は33.3日と男性70代の29.6日を上回った。さらに練習場等はコースをはるかに上回る熱中度で年平均回数は41.1回（無効除き46.1回）を数えた。

感覚的にはライトユーザーが少なすぎてヘビィユーザーが多すぎるが、ヘビィユーザーに支えられているのは間違いない。

今回の基本データをおさらいすると、「令和7年スポーツの実施状況等に関する世論調査」は全国の18歳から79歳の男女4万人を対象に令和7年11月にWEBアンケート方式で実施された。その結果、20歳以上の週1日以上のスポーツ実施率は51.7%で、前年度から0.8ポイント減少し、特に女性の実施率

スポーツ庁世論調査によるゴルフ参加 居住地・世帯年収別等②

	全体	全体数	25年		増減	
			参加率 (%)		コース	練習場
			コース	練習場		
		40,000	4.8	3.9	▲0.6	▲0.4
都市規模	東京23区・政令指定都市	9,961	5.1	4.3	▲0.6	▲0.4
	東京都区部	3,552	5.3	4.3	▲0.8	▲1.0
	政令指定都市	6,409	5.1	4.4	▲0.4	0.0
	大都市	14,521	5.3	4.3	▲1.0	▲0.8
	小都市	11,741	4.2	3.4	▲0.5	▲0.3
居住地域	町村	3,777	3.8	2.0	0.4	▲0.6
	北海道	1,668	4.2	3.2	0.4	▲0.3
	東北	2,718	3.8	3.5	0.1	0.8
	北関東	2,146	6.5	4.7	▲0.4	▲0.3
	首都圏	11,930	4.5	3.6	▲1.0	▲1.0
	北陸	1,604	4.0	2.7	▲0.3	▲0.9
	東山	1,509	4.9	3.7	▲0.5	▲0.2
	東海	4,067	5.8	4.8	▲0.1	0.1
	近畿二府1県	5,324	5.0	4.2	▲0.9	▲0.4
	その他近畿圏	1,160	5.8	4.9	▲0.4	▲0.3
	中国	2,239	4.8	3.8	▲0.5	0.0
	職業	九州・沖縄	1,164	4.1	3.1	▲0.6
自営業主		4,471	4.7	4.0	▲0.5	▲0.4
雇用者		3,090	6.0	5.0	▲0.9	▲0.5
主婦・主夫		21,731	5.5	4.7	1.6	▲0.2
学生		5,503	1.4	1.2	▲0.4	0.0
世帯年収	無職	1,383	0.9	1.6	▲0.8	▲1.0
	収入なし	735	1.1	1.5	▲0.2	0.6
	100万円未満	1,209	1.1	1.0	▲0.7	▲0.5
	100～200万円未満	2,363	1.8	1.4	▲0.2	▲0.2
	200～300万円未満	3,595	1.8	1.8	▲2.5	▲1.0
	300～400万円未満	4,098	3.3	2.5	▲1.7	▲1.0
	400～500万円未満	3,691	4.7	3.5	▲0.2	▲0.8
	500～600万円未満	3,052	4.9	4.0	▲0.4	▲0.9
	600～700万円未満	2,375	5.1	4.2	▲1.6	▲1.0
	700～800万円未満	2,276	5.4	4.7	▲1.3	▲0.6
	800～1000万円未満	2,923	7.3	6.4	▲0.8	▲0.5
	1000～1200万円未満	1,786	8.9	7.2	▲0.7	▲1.3
1200万円以上	2,023	13.3	10.5	▲1.8	▲1.9	
未既婚	わからない	4,002	2.0	1.8	▲0.3	▲0.1
	答えたくない	5,872	3.8	2.9	▲0.5	▲0.2
	既婚者	22,108	7.2	5.0	0.0	▲0.5
	未婚者（配偶者別居含む）	16,917	2.7	2.8	▲0.4	0.0
家族構成	一人暮らし	8,749	3.2	2.9	▲0.6	▲0.4
	夫婦のみ・子なし	11,147	7.1	5.1	▲0.5	▲0.7
	夫婦・子あり	9,282	5.7	4.7	▲0.7	▲0.3
	親と同居（未婚）	4,140	2.1	2.1	▲0.6	▲0.4
運動頻度	2世帯以上同居	1,719	5.8	4.9	▲0.4	0.2
	週に3日以上	12,207	6.0	4.9	▲0.6	▲0.7
スポーツ参加	週に1～2日	8,522	7.9	6.7	▲0.5	▲0.3
	する・みる	2,612	10.8	9.5	1.0	0.0
参画	する・みる	12,942	7.9	6.6	▲0.1	▲0.5

スポーツ庁の「令和7年スポーツの実施状況等に関する世論調査」より本誌にて作成。全体数は調査に回答した人数

が低下、20代～50代の子育て・働き盛り世代で引き続き低い傾向にあった。

その点で運動実施率の高い高齢者が多いゴルフは比較的有利な環境だが、運動各種目とも実施率が低下し、「前年比ゴルフ（コースでのラウンド）」は4.8%（0.6P減）で前年と同じ8位、「ゴルフ（練習場・シミュレーションゴルフ）」も実施率3.9%（0.4P減）で

9番目となった。実施率の低下で推計人口に基づき本誌で推計したゴルフ人口もコースで49万人、練習場で365万人まで減少した。コースを利用してない練習場利用者を加えても520万人に過ぎない。

まさに由々しき問題だが、ゴルフ場は2024年に8800万人の利用者（NGK発表のゴルフ場利用税に基づくデータ）があり、高水準を保っている。

年間1億人の利用者があった平成3、4年バブル時のゴルフ人口1300万人時代の年間平均回数は13回程度だった。

今のゴルフ市場を言い表す言葉として、経済用語で「バレーの法則（20対80、二八チの法則）」があり、上位20%のヘビークーザーや主要人物が80%を生み出す経験則で、多くの業界でこれら偏りが起こる。

ゴルフ界ではそれが60歳以上

のシニア層であり、コロナ禍で増えたライト層が抜けつつあり、今はさらに二八チの法則の濃密度が高まっている。その上、今は元気な高齢者に支えられ、ゴルフ界にとっては「ボーンスタイム」に入っているとの見方もできるほど。これら高齢者が5～15年でゴルフ回数が徐々に減少していくのは不可避であり、次世代のヘビークーザー育成、若者・女性の再度の呼び戻しが

必要になっている。

またゴルフアールの利用回数が増えるには、より住居や職場に近い施設が重視される。早朝・薄暮、ないしナイター営業の9ホールプレーを増やしたり、インドア等の施設でヘビークーザー比率が増えている現象もテコにして活用したいところだ。

